

タテの系列化

大学	中学校	系列化後の名称	開学時期	形態
青山学院	—	青山学院相模原中・高等部(仮)	未定	相模原市に中・高を新設
中央	(私)横浜山手女子中・高	未定	11年4月	10年系属化、11年学校法人合併、共学化を検討中
	—	中央大学附属中	10年4月	付属高校に中学を併設
慶應義塾	—	慶應初等中等教育学校(仮)	11年4月	横浜市青葉区に小・中を新設
早稲田	(私)摂陵中・高	早稲田摂陵中・高(仮)	09年4月	系属化を含む提携関係、40人の早大推薦枠
	—	早稲田佐賀中・高(仮)	10年4月	唐津市に中高新設、定員の半数の早大推薦枠
	—	早稲田大高等学院附属中	10年4月	高等学院に附属中学を設置
立命館	(私)宇治高	立命館宇治中・高	94年4月	学校法人合併
	(私)札幌経済高	立命館慶祥中・高	96年4月	学校法人合併
	(市)守山女子高	立命館守山中・高	06年4月	守山市から学校法人立命館に移管
	(私)初芝高	初芝立命館高校	09年4月	付属化を含む提携関係
龍谷	(私)平安中・高	龍谷大付属平安中・高	08年4月	付属化を含む提携関係
大阪工業 摂南 広島国際	(私)啓光学園中・高	常翔啓光学園中・高	08年4月	学校法人合併
関西	(私)北陽高校	関西大北陽高校	08年4月	学校法人合併
関西学院	(私)千里国際学園中・高	(未定)	10年4月	学校法人合併

大学	中学校	形態	実施時期	内容
関西	(府)向陽高	高大接続「パイロット校協定」を締結。このほか、4~5校を検討	09年度入試	10人の特別推薦枠
	(府)乙訓高			11人の特別推薦枠
	(府)西乙訓高		09年度入試	11人の特別推薦枠
	(私)羽衣学園中・高			10人の特別推薦枠
	(私)奈良育英中・高		07年度入試	13人の特別推薦枠
	(私)育英西中・高		07年度入試	15人の特別推薦枠
	(私)京都光華中・高		08年度入試	10人の特別推薦枠
	(私)大谷中・高		09年度入試	十数人の特別推薦枠
	(市)伊丹高		09年度入試	特別推薦枠、数は毎年協議
	(私)上宮太子中・高		08年度入試	9人の特別推薦枠
関西学院	(私)三田学園中・高	「関学コース」を設置	07年4月	「関学コース」は原則全員が関西学院大学に進学できる
	(私)帝塚山学院中・高			
	(私)清教学園中・高			

(注) (私)は私立、(市)は市立、(府)は府立、(仮)は仮称。このほか立命館、龍谷、近畿などが特別推薦枠を設定する内容の提携校拡大を進めている
(出所)筆者作成

COEプログラムの競争過熱

大学間競争激化の背景としては、国の補助金の配分方式の変化も影響している。2002年に、世界的な研究拠点に対する特別補助金制度(21世紀COEプログラム)が導入された。その年、50大学113件に対して182億円が投入されたが、その後、この種の競争的補助金は対象領域も総額も拡大している。補助金が、学生数や教員数などをベースとする平等的配分から個々の大学の教育研究成果を評価する競争的配分に移行しつつあるのだ。

教育研究成果を上げるためには、優秀な学生を1人でも多く確保する必要がある。国公私立を問わず有力難関大学が率先して、優秀な学生を求めて奨学金制度や特待生制度を拡充しているのも、このためだ。国内にとどまらず、海外事務所を設けて優秀な留学生の確保に乗り出す有力校もある。(亀井信明)

などで、一定の推薦入学枠を持つなどの関係を結んだ学校をいう。大学の学校法人が直接運営するタイプの付属校とは異なる。さらに、早稲田大は2010年度に、創立者大隈重信ゆかりの佐賀県唐津市に「早稲田佐賀中学・高校(仮称)」を新設。これも系属校で将来は定員240人の半数程度が早稲田大

に入学できる見込みだ。摂陵高の今年度の入学者数は大きく定員割れ。07年度に大阪府が府立高校の学区を9学区から4学区に統合し、府立高人気上昇した影響を受けた形で、その対応が求められていた。一方、早稲田大は、大阪や佐賀など地方出身者を集められるメリットがある。さらに、早稲田大は10年度に、東京都練馬区の早稲田大学高等学院に附属中学を設置する計画。これは全生徒が早稲田大に進学できる付属校だ。首都圏では優秀な生徒の多くが中学受験で中高一貫校に流れてしまいうため、中学から囲い込む必要が出てきたというわけだ。

有力私立大「学生獲得」5つの戦略

亀井 信明 (高等教育総合研究所代表取締役)

有力大学間の学生獲得競争が激しさを増している。少子化によって志願者数が減少する一方、特に2000年代に入ってから規制緩和に伴う大学・学部の新設が需給バランスを大きく崩した結果、都心部のブランド力のある有力大学と、地方大学との「2極化」を拡大させている。

私立大の収益力を支える柱は授業料などの学生納付金であり、大学経営にとってはまず学生の数がモノをいう。だが、教育の質が伴わなければ、やがて背を向けられるのは必至だ。こうして、有力校はさらにブランド力を高めようと、学生の量と質、両面の向上を競っている。

それでは、これら有力校はどのような戦略で競争に臨んでいるのか。そこには大きく5つのキーワードを読み取ることができる。

①タテの系列化

中高一貫校から集める
有名私立大は数年前から、中学・

高校の系列化を進めている。「タテの系列化」の狙いは、内部進学者の増加によって経営の安定化を図ると同時に、一般入試の入学定員を減らすことで、偏差値を上昇させる点にある。

注目目は早稲田大の動きだ。09年度に大阪府茨木市の摂陵中学・高校を系属校化し、名称を「早稲田摂陵中学・高校(仮称)」に変更する。早稲田大にとって関西初の系属校で、推薦で40人程度が早稲田大に進学できるようにになる。系属校とは、大学と学校法人は別だが、教育理念の共有

勝ち残る大学

今春入試では4年制私立大の実に約半分が定員割れとなった。「大学全入」時代の到来。生き残りをかけたレースは本格化している。



が可能なのは、偏差値が高く、ブランド力がある有名大（早慶上理、MARCH、関関同立など）に限られる。例外としては、常翔学園（大阪工業大学）と啓光学園中学・高校が合併してできた常翔啓光学園中学・高校のようにスポーツ（ラグビー）強化を特色とする連携もある。

②「E」の連携
国公私の「垣根越え」
 かつて「大学間連携」といえば、授業を共有する単位互換制度が一般的だった。だが、最近では、国公立の垣根を越え、互いの長所を持ち寄るなど、単独大学では不可能な高度な研究・教育を目的とする連携へと深化を遂げている。

大学間の学術交流としては、過去30年の共同研究などの実績がある早稲田大と東京女子医科大の学術交流協定（00年）が有名。その後、生命科学と理工学の融合領域で成果を上げ、今年4月に東京都新宿区若松町に共同で「先端生命医科学センター」が設立された。早稲田大のロボットや人工臓器などの研究と東京女子医科大の先端医療を融合させ、ロボット手術や人工臓器による再生医療などを研究する。

早稲田大は今年5月、筑波大と包括的連携協定を結んでいる。早稲田大の電気・情報生命工学科に代表さ

れる「生命＋理工学」と筑波大の「医学」の両学士課程を履修することで、両方の大学の学位が取得でき、遺伝子診断や人工臓器など理工学と医学の橋渡しの研究をする人材を育てるのが目玉。「国・私」連携で、どちらも総合大学である点と学部レベルでの連携であることがユニークだ。早稲田大は同月、関西大との間でも包括的連携協定を結ぶなど、動きは活発だ。

このほか昨年6月には、国立大の三重大医学部（医、看護）と鈴鹿医療科学大の薬、保健衛生、医用工学、鍼灸学部が教育・研究での相互補完を目的として包括連携協定を結んだ。医学部はあるが薬学部がない国公立大と私立大薬学部の連携は今後も増えるだろう。4月の慶應大と国立薬科大の合併も慶應大医学部と国立薬科大薬学部の補完という意味での発展型といえる。

さらに、10年度からは複数大による共同学部・大学院の設置が可能となる。政府が「骨太の方針2007」で大学院研究科などを共同設置できる仕組みづくりを目指すとしたのを受け、文部科学省は08年度中に大学の設置基準に関する省令を改正し、09年度中にも設置認可を行う予定だ。

この規制緩和を受け、関西大・大阪医科大・大阪薬科大の3大学は「生

命科学部（仮称）を10年4月に共同設置すると発表。工学、医学、薬学を統合的に学んだ看護師など医療従事者の育成が目的で、入試も3大学が共同実施、学位も3大学連名となる。

こうした大学間の連携の狙いは、大学の経営環境が厳しくなるなか、既存の教育研究資源を活用することで、新学部・学科の設置以上の効果を生み出す点にある。文科省が08年度から「戦略的学術支援事業（助成金50億円）」を導入し、採択されれば、年間5000万〜3億円の助成が3年間受けられることも、提携の動きを加速させている。

③自己増殖
生命系学部が続々
 規制緩和で03年度からは、認可を要しない「届け出」だけで学部新設が可能となった（23頁の囲み参照）。こうしたなかでは、人気の高い学部・学科の新設が、学生獲得に貢献する。ここ数年のトレンドは「生命科学部・学科」系統であり、多くの大学で新設され、志願者を集めている。

従来、理系は理、工、農、医、歯、薬学部に分類され、理Ⅱ基礎研究、工Ⅱ工業の実学、農Ⅱ農業・畜産の実学、医・歯Ⅱ臨床医療、薬Ⅱ創薬——など目的別に分かれ、生命に関する研究は、理学部生物学科、農学

部農芸化学科、医学部医学科、薬学部などで、異なるアプローチから研究されてきた。

この状況は80年代以来の遺伝子組み換え技術を基にした「生命科学」誕生で一変した。日本で初めて生命科学科が誕生したのは90年の鳥取大医学部と姫路工業大理学部である。さらに学部としては、94年の東京薬科大生命科学部が先駆けとなり、03年には、早稲田大理工学部に「電気情報生命工学科」が新設され、「生命体は電気信号を仲立ちとした情報体」というコンセプトで関係者の注目を集めた。

その後、次々に生命科学系の学部学科が誕生。昨年、早稲田大先進理工学部には電気・情報生命工学科に加えて化学・生命化学科、生命医科学科が、関西大では化学生命工学科、今年とは同志社大生命医科学部、法政大生命科学部、立命館大生命科学部が設置された。

生命科学以外の理系学部・学科の新設や改組も活発だ。学部・学科で学ぶ内容が分かりやすい名称に改めたり、従来型の理工学部を新しい体系に再編する例が多い。

④地域性の突破
東西有力大「縄張り拡大」
 入学者の出身地別人数を見ると、全国から広く学生を集めている大学

ヨコの連携

大学	形態(時期)	内容
早稲田 東京女子医科	学術交流協定 (00年3月締結)	両大学は過去30年間にわたり共同研究の実績がある。単位互換制だけでなく、将来の合同大学院設置を視野に入れた学術交流協定を締結した。その後、生命科学と理工学の融合領域で様々な成果を上げ、08年4月、東京都新宿区に「先端生命医科学センター」を設立。
首都大学東京 共立薬科 東京慈恵会医科	共同教育・研究協定 (06年12月締結)	医師、看護師、薬剤師が「チーム医療」の促進と医療安全の向上を目指し、3大学が共同して研究・教育に取り組む。具体的には医療現場での意思疎通に関するセミナーを共催。将来的には各大学間の講義相互乗り入れ、単位互換を目指す。
鈴鹿医療科学 三重	包括的連携協定 (07年6月締結)	08年4月の鈴鹿医療科学の薬学部新設を契機に、教育研究の相互補完を目的に包括連携協定。鈴鹿医療科学の保健衛生、医用工学、鍼灸、薬の4学部と三重の医学部(医学、看護)の全面的提携で、単位互換、実習相互受け入れ、大学院生相互指導を目指す。
慶應義塾 共立薬科	学校法人合併 (08年4月合併)	慶應義塾が共立薬科を統合する形で薬学部と大学院薬学研究科を設置。06年度からの薬学部6年制化で志願者が減少したことが背景にある。08年度に設置された「慶應薬学部」は「慶應ブランド」で大きく志願者を伸ばした。
早稲田 筑波	包括的連携協定 (08年5月締結)	教育研究面で包括的に協力する。早稲田理工と筑波医系の課程を融合した「医学理工学研究者等養成のための学士課程教育プログラム」で双方の学生が理工、医学いずれの学士号も取得可能とした。このほか、情報・ロボティクス分野の共同研究など。
早稲田 関西	包括的連携協定 (08年5月締結)	教育研究など多様な分野で包括的に連携。協定単位互換、共同研究、共同ゼミ合宿などを積極的に進め、野球やアメリカンフットボールなどの交流戦も計画。8月3日のオープンキャンパスは両大学が双方のキャンパスに乗り入れる形で実施した。
立命館 山形	包括的連携協定 (08年6月締結)	学生や教員の交流を深め、教育の質の向上を目指す内容。具体的には、学長が相手大学で講演、数日間の学生派遣、双方の大学の講義の受講、討論会の実施、職員交流など。将来的には単位互換制度の導入を目指す。
関西学院 聖和	学校法人合併 (09年4月合併)	関西学院が聖和を統合。教育学部を新設し、幼稚園からの一貫教育を特色とする。幼児・初等教育学科(280人)と臨床教育学科(70人)からなる教育学部を新設し、これまでの聖和大付属聖和幼稚園を学校法人関西学院が聖和幼稚園として運営する。
関西 大阪医科 大阪薬科	共同学部設置 (10年4月設置)	3大学が生命科学部(仮称)を共同設置し、工、医、薬を融合的に学ぶ看護師などの医療従事者を育成する。入学定員200人で大阪医科内に校舎を建築する。構想によると、生命科学は生命医科学・生命薬学・医工学・生命情報科学・医療経営学・看護学からなる。
信州、中央、電気通信、 北見工業、弘前、三重、 秋田県立、長岡技術科学	共同大学院設置 (10年4月設置)	「コラボ産学官」の提言に基づき、中央と国公立7大学が連携、東京都内に理工系「スーパー連携大学院(仮称)」を設置する。産学連携による教育研究を実践することで、産業界・行政機関など幅広い分野で活躍できる博士の養成を目的としている。

(出所)筆者作成

慶應義塾大は11年度に横浜市青葉区に「慶應初等中等教育学校(仮称)」を新設する。男女共学で定員144人。高校への進学条件はまだ不明だ。

青山学院大は、理工、社会情報学部のある相模原キャンパス内に「青山学院相模原中等部・高等部(仮称)」の新設を予定している。キャンパス内にある利点を生かし、一貫性の高い高大連携教育を目指す。

中央大は、横浜山手女子中学・高校を10年に系属化し、11年に学校法人を合併、共学化する方向で検討している。横浜山手女子学園のある横浜市中央区山手町は、フェリス学院、横浜雙葉学園、横浜共立学園など

の名門女子校が集中するなど立地条件に優れている。また、10年度には、東京都小金井市の中央大附属高校隣接地に付属中学を新設の予定。MARCH(明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大)で唯一、付属中がなかった中央大だが、これで計2校の系列中学を抱えることになる。

関西では競争がさらに激しく、囲い込みの舞台が小学校にも拡大している。06年度は同志社大、立命館大、08年度は関西学院大、09年度は関西大と、付属小の開校ラッシュだ。中高系列化も首都圏より激しく、付属校化だけでなく、特別推薦枠を設ける提携中高の獲得合戦が熱い。ただし、このような中高囲い込み



早稲田大は提携加速。握手する河田梯一(関西大学長)と白井克彦(早稲田大総長)。5月13日

自己増殖(生命科学系学部・学科の新増設の状況)

	2004年度	2005年度	2006年度
学部設置	金沢工業 / 情報フロンティア / 生命情報科学 中京 / 生命システム工 / 身体システム工 立命館 / 情報理工 / 生命情報科学 近畿 / 産業理工 / 生物環境化学 倉敷芸術科学 / 生命科学 / 生命科学 東亜 / 医療工 / 医療情報機械工、医療情報工、医療工	○首都大学東京 / 都市教養 / 理工学系・生命科学コース ○大阪府立 / 生命環境科学 / 生命機能化学、生物情報科学 ○県立広島 / 生命環境 / 生命科学 いわき明星 / 科学技術 / 生命環境 成蹊 / 理工 / 物質生命理工 桐蔭横浜 / 医用工 / 生命・環境システム工 崇城 / 生物生命 / 応用生命科学	●富山 / 工 / 物質生命システム工 ●京都工芸繊維 / 工芸科学 / 生命物質科学域 中部 / 生命健康科学 / 生命医科学
学科設置	日本 / 文理 / 物理生命システム科学 岡山理科 / 理 / 臨床生命科学 広島国際学院 / 工 / バイオリサイクル 九州産業 / 工 / バイオロボティクス 東和 / 工 / 医療電子工	酪農学園 / 環境システム / 生命環境 玉川 / 農 / 生命化学 東邦 / 理 / 生命環境科学 近畿 / 農 / 応用生命化学 福岡工業 / 工 / 生命環境科学	●名古屋 / 農 / 応用生命科学 ●佐賀 / 農 / 生命機能科学 法政 / 工 / 生命機能 大阪工業 / 工 / 生体医工 倉敷芸術科学 / 生命科学 / 生命動物科学
	2007年度	2008年度	2009年度
学部設置	●茨城 / 生命環境学群 / 生物学群 早稲田 / 先進理工 / 化学・生命化学、生命医科、電気・情報生命工 関西 / 化学生命工 / 生命・生物工	○京都府立 / 生命環境 / 生命分子化学、農学生命化学 北海道工業 / 医療工 / 医療福祉工 法政 / 生命科学 / 生命機能 麻布 / 生命・環境科学 / 食品生命科学、臨床検査技師、環境科学 神奈川工科大学 / 応用バイオ科学 / 応用バイオ科学 金沢工業 / バイオ・化学 / 応用バイオ 同志社 / 生命医科学 / 医工、医情報、医生命システム 立命館 / 生命科学 / 生命医科学、応用化学、生物工、生命情報	●鹿児島 / 工 / 化学生命工 甲南 / フロンティアサイエンス / 生命化学 学習院 / 理 / 生命科学 桐蔭横浜 / 医用工 / 生命医工
学科設置	●九州 / 医 / 生命科学 ●岩手 / 農 / 農学生命、応用生物化学 ●千葉 / 園芸 / 応用生命化学 ○前橋工科大学 / 工 / 生命情報 埼玉工業 / 工 / 生命環境化学 東京電機 / 理工 / 生命理工学系 武蔵工業 / 工 / 生体医工 明治 / 理工 / 電気電子生命 岡山理科 / 工 / 生体医工 徳島文理 / 工 / 臨床工	●秋田 / 工学資源 / 生命化学 ●北見工業 / 工 / バイオ環境化学 ●神戸 / 農 / 生命機能科学 芝浦工業 / システム工 / 生命科学 上智 / 理工 / 物質生命工 中央 / 理工 / 生命科学 帝京科学 / 生命環境 / 生命科学 倉敷芸術科学 / 生命科学 / 生命医科学 広島国際学院 / 工 / 総合工・バイオ・リサイクル 福山 / 生命工 / 生命栄養科学	

(注) 大学名 / 学部名 / 学科名、● 国立 ○ 公立 無印・私立 09年度は現在判明しているもののみ表記 (出所) 文部科学省

急速に進んだ規制緩和
「護送船団」から「自由競争」へ

大学の規制緩和や自由競争化の流れは、1991年の「大学設置基準の一部改正」に遡る。それまでの大学設置基準では「大学で開設すべき授業科目」に重点が置かれ、大学・学部の教育目的からみた授業科目の位置付けが欠けていた。改正では、一般教育と専門教育の区分、一般教育内の科目区分を廃止し、カリキュラム編成において大学の自主性を尊重する内容に変わった。これは「大学設置基準の大綱化」と呼ばれ、各大学では一般教育よりも専門教育の比重を置くようになる。2003年には「大学設置基準」における規制が大幅に緩和された。大学に求められていた校地の面積が縮小され、校舎など施設および設備の段階的整備が可能になった。認可申請に必要な書類も簡略化

され、審査期間も短縮された。さらに、一定条件を満たす場合は、認可を要しない「届け出」だけで学部などの新設が可能となった。また、構造改革特区では、借用の校地、校舎で、運動場の設置も不要な株式会社立の大学を容認した。大学行政は、従来の「護送船団」から各大学の自由裁量・自己責任を基本とする「自由競争」にほぼ移行したといえる。この結果「大学全入の時代」とされる近年でも、毎年十数校前後が新設されてきた。4年制大学数は、18歳人口がピークだった92年の523校から08年には765校へと46%増加。「届け出」制度を活用し、毎年数多くの新しい学部・学科が誕生している(来年度は71学部を新設・改組予定)。しかし、大学や新学部急増には、問題

も多い。大学側が学生募集を意識するあまり、保護者には、皆目見当がつかないような名称の学部・学科が数多く出現している。入学した時点の学部・学科名称が卒業前に、時代のニーズに合わせた違う名称に変更されたり、学生の卒業を待たずに在籍学部学科の学生募集を停止するなどのケースも珍しくない。こうした状況を踏まえ、06年度より、文部科学省は、1年間という短い期間での事前の審査よりも設置後の4年間のチェックを重視する方式へ転換している。(亀井信明)

大学の規制緩和の流れ

年度	緩和の概要
1991	大学設置基準の一部改正(大綱化)
2002	首都圏及び近畿圏既成市街地工場等規制法を廃止
2003	大学設置基準の一部改正(校地面積、校舎の段階的整備、書類の簡素化など大幅な弾力化)。学部、学科の「届け出」化 国立大学法人法施行(国立大学の独立行政法人化、04年度から移行)

(出所) 筆者作成

地域性突破

大学	実施会場	日程	主な内容	参加数	開始年
慶應義塾	慶應大坂リバーサイドキャンパス(大阪市福島区)	8/2(土)	同日開催の三田キャンパスと結び、塾長講演、学部説明の映像配信。模擬講義、入試説明を中心に実施。	約300人	08年
早稲田	梅田センタービル(大阪市北区)	8/2(土)	同日開催の早稲田キャンパスとインターネットで結び、大学説明、各種アトラクション、模擬講義などを放映。現地でも入試説明のほか「Tutorial English」などの模擬講義を体験。	2日間で約1500人	07年
	関西大千里山キャンパス(大阪府吹田市)	8/3(日)	5月に関西大と締結した包括的連携協定に基づき、相互に実施。関西大オープンキャンパスと同時実施で、内容は8/2とほぼ同一。		08年
立命館	東京ドーム(東京都文京区)	9/23(祝)	首都圏での知名度アップを狙う。今年はOBでプロ野球・ヤクルト前監督の古田敦也氏、陰山英男氏(立命館小副校長)、藤原和博氏(杉並区立和田中前校長)らを招いたフォーラム中心。	目標5000人	07年
関西	早稲田大早稲田キャンパス(東京都新宿区)	8/3(日)	5月に早稲田大と締結した包括的連携協定に基づき、両大学でオープンキャンパスを乗り入れ。模擬講義、入試相談など。	70~80人(推定)	08年

(出所) 筆者作成

は東京大だけだ。関西から「早慶」への入学者や、関東から「関関同立」への入学者は、大学の知名度の割には少ない。そこで、首都圏の有力大学が関西へ、関西の有力大学が東京へ進出して、学生獲得を目指す動きが活発になってきている。早稲田大は昨年、8月に大阪・梅田で大学説明会を開いている。さらに今年5月に関西大と包括提携したのを受け、8月3日には、関西大キャンパス内でも、早稲田大のオープンキャンパスを開いた。大学説明のほかに、映像による模擬講義、少人数英語授業体験などが実施され、2日間で約1500人を集めた。関西大も同日、早稲田大早稲田キャンパス内で、大学説明会を開いた。慶應大は5月に創設者福沢諭吉の生誕地である大阪府福島区に「慶應大坂リバーサイドキャンパス」を開いた。8月2日には関西で初のオープンキャンパスを開いた。同日開催の東京・三田キャンパスでのオープンキャンパスの模様をライブ

中継し、経済、薬学部の模擬講義を実施。約300人が集まった。立命館大は9月23日、東京都文京区の東京ドームで大規模イベントを開く。大学紹介、入試説明会などのほか、OBの古田敦也氏(元プロ野球選手)、藤原和博氏(立命館小学校副校長)、藤原和博氏(杉並区立和田中学校前校長)らを招いたフォーラムなど。「首都圏でのプレゼンスを高める取り組みとして昨年開いた「サピアタワー」には全国の大学オフィスが軒を並べ



ており、首都圏での志願者増を念頭に置いている。5000人の参加者を見込む(立命館大入学生センター)と意気込む。07年春にオープンしたJR東京駅隣接の高層ビル「サピアタワー」(35階建て)には、京都大、立命館大、関西学院大、北海道大など全国約20の大学が事務所などを構え、公開講座のほか、首都圏での学生募集や就職活動などの拠点としている。あた

後者のトレンドは観光系の学部・学科だ。98年度に立教大が観光学部を設置したのを皮切りに、09年度には観光系の学部・学科の数は計40となる見込み。こうした大学にとって、従来であれば専門学校に進んでいた学生を大学に取り込めるというメリットが大きいようだ。

短大、専門学校では学問分野が棲み分けられていたが、00年代の規制緩和で、こうした「棲み分け」破壊が進行している。女子学生の4年制大志向の高まりで、短大志願者が減少したことも大きい。こうした「4年制大化」の流れは、①看護系や医療技術系などの短大・専門学校の4年制大に改組、②従来の2つのパターンがある。後者のトレンドは観光系の学部・学科だ。98年度に立教大が観光学部を設置したのを皮切りに、09年度には観光系の学部・学科の数は計40となる見込み。こうした大学にとって、従来であれば専門学校に進んでいた学生を大学に取り込めるというメリットが大きいようだ。

⑤ 棲み分け破壊

大学で学ぶ「観光、介護」

看護、医療技術、介護、観光、服飾、美容……。従来は専門学校や短大で主に教育されてきた分野の4年制大がこのところ続々新設されるようになってきている。従来、教育の分野や内容によって、4年制大、短大、専門学校では学問分野が棲み分けられていたが、00年代の規制緩和で、こうした「棲み分け」破壊が進行している。女子学生の4年制大志向の高まりで、短大志願者が減少したことも大きい。こうした「4年制大化」の流れは、①看護系や医療技術系などの短大・専門学校の4年制大に改組、②従来の2つのパターンがある。